

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470800885		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケア・パートナー森伸小俣		
所在地	三重県伊勢市小俣町明野1308番地		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2470800885-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個別支援計画を毎月開催している。ユニット会議にて話し合いし職員同士共有し実践している。毎月の研修で職員へのスキルアップを目指しサービス向上につなげている。ユニット会議にて、入居者一人ひとりについて話し合い、要介護状態の軽減・悪化防止・予防に資するよう必要な援助を妥当・適切に行えるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は開設18年、近鉄明野駅から徒歩3分に立地している。事業所の理念である「その人を想い、寄り添い、共に生きる」を全職員が共有し、入居者と共にゆったりと過ごすこと意識を高く持ちながらケアに取り組んでいる。また毎年、地域の高校の福祉実習生を受け入れており、事業所の持ちうる力を活用しながら地域貢献を大切にしている。実習終了後も手作りの季節カレンダーを届けてもらうなど、日常的に交流が続いている。そして、入居者と職員の共用空間づくりにも力点を入れており、入居者と職員が共に作成した梅の花飾りを食堂・リビングの壁面に飾っている。季節を感じ居心地よく過ごせるような工夫をして好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「一人の人を大切に」小俣の理念「寄り添い・共に生きる」を基本に、利用者一人ひとりとのかかわりを大切に、その方にあった支援を会議などで話し実践している。	2006年開設当初から常に理念に沿った支援を心掛けて来た。一番大事にしている「一人ひとりの思い」には特に拘って来た。今も毎月のユニット会議で、一人ひとり支援についてじっくりと話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防のため、イベントなどは中止していたが、5類になり、身近な保育園児との交流（敬老の日・ハロウィン等）を開始している。3月にはボランティアの方に催し物をお願いしている。	隣接している保育園の子供たちの笑顔や声は互いの癒しになっている。家族からの紹介で、地域のボランティアによる、フラダンス・ギター演奏・手品の交流に、涙する利用者もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の高校生の実習（三年生）の受け入れを行っている。本年度は一年生の施設見学も再開した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防のため、中止していた。本年度より5類になり、対面での開催を予定していたが、日程調節の連絡がうまくできておらず、12月より再開。色々な意見をいただき、サービス向上につなげる。	昨年12月から2ヶ月毎に対面開催をしている。参加者も多様であり、利用者の情報、町内のイベント、質疑応答など貴重な時間であった。今後はヒヤリハットや家族アンケート等を、利用しながら更なる充実した会議に取り組む予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定や生活保護等はケアマネが関係各課と連携をとっている。不明な点があれば随時担当課へ確認し協力関係を気づく様取り組んでいる。	管理者や介護支援専門員は、新しい情報や疑問が生じた時の対応の仕方など、直ぐに電話や訪問にて相談に出掛けている。対応も素早く、連携もスムーズに出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を2か月に一度開催し、話し合いを行っている。委員会が中心になり、対象者の有無の確認などを行い、記録を取っている。入居されて間もない利用者が落ち着くまでは、ユニット出入り口は施錠している。	身体拘束適正化委員会、職員研修と共に定期的に開催し、記録もファイリングしている。行政の実地指導でも指摘はなく、問題はなかった。職員の身体拘束や虐待防止への認識は高く、日常の支援時にも注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を2か月に一度開催し虐待の有無などを確認し、記録に残している。入浴介助や着交時等利用者の尊厳を守りながら全身観察を行っている。身体に何かあった場合は報告・伝達し原因追及を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会が今のところないが、今後の研修などで職員が学んでいえるよう体制づくりに取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学に来ていただき、その際にご家族より、現在の困りごと等確認しながら、契約書・重要事項説明書・料金表等を確認しながら説明を行い、理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見について、サービス担当者会議等を開き、反映させている。ご家族より相談・苦情・要望が出たときはスピード感をもって誠実に対応している。	家族へは小さな事も報告するように心掛けている。家族からも安心感に繋がると感謝の言葉もある。言葉が少ない家族には、メールのやり取りでスムーズに話せるようになった。	
11	-7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを大事にしており、普段業務をしながら、申し送り・連絡帳などで伝達を行っている。職員の意見なども月1回はユニットMTなどを利用し、対応等の話し合いも行き、検討し、反映させている。	職員からの要望や意見は直ぐに聞き入れ、全員で実践、状況を判断し、今後の取り組みに活かしている。職員の感謝の言葉もあり、良好な関係性が伺える。業務改善に取り組みスムーズに出来た事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回評価面談や、個人的に相談事などがある場合は、随時面談等を行っている。ユニットでの現場確認や対応を確認し、現場での指導を行ったり、苦手部分の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度社内研修（動画等）を設けている。他に苦手分野の勉強などはいつでも動画で見れる環境になっている。現場でのトレーニングも一緒に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のこともあり、中止していた。今後、外部研修や講習会の参加できる環境づくりを行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談等で困りごとや希望を伺い、入居前カンファレンスで職員へ情報共有を行っている。入居後も状態などを記録し、信頼関係を築き、安心して過ごしていただける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前などの話を伺い、施設見学等も行っている。困りごとや入居後はどのように過ごしてほしいのかを聞き取り、安心して任せていただけるケアプランの作成を行っている。作成後はご家族へ確認しながら変更も行っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に話を伺い、困っていることや問題点を見極め、適したサービスや施設の紹介を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりできることを見極め、掃除や洗濯物たたみなどを一緒に行っている。日課にできるよう声掛けしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の様子を伝えたり、受診などを家族様に協力いただける時は協力を得ている。ご家族から手紙などが届いたら本人に伝えお渡ししている。ご家族と本人との絆を大切にできるよう支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のこともあり、中止していたが、面会再開させていただき、ルールを決めて面会していただいている。他にも日々会話の中で、昔の話をしたり写真を見ながら話をする事も行っている。	外泊する家族が2組あり、月に一度は実行されている。他にも家族の協力の元、馴染みの床屋への訪問、医師への通院など、笑顔が溢れ、良い関係が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話ができる環境づくりを行い、関わり合いを持っているよう、席などを決めている。居室対応や会話に入れない利用者がいたら職員が間に入り関わりを持てる様配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もご家族からの状況の連絡などがあった場合には快く対応させていただいている。近隣でご家族に会ったりした場合も現状の確認などもさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話をする機会を作り、会話の中から希望や意向を探っている。一番身近な職員や家族からも話を聞く機会を設けている。	利用者本位を一番に考え、思いを伝えるのが困難な時は、表情や行動などで、細かく観察している。観察時の気付きや情報は直ぐに記録し、共有している。とても重要な情報であると全職員で認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時にご本人や家族にも話を聞き生活歴などの把握を行っている。また、担当職員からも話を聞きサービス利用の経過や現状の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員などの生活に関する記録から、心身の状況の把握を行っている。特別な変化が見られた際には電話、あるいは文書にて主治医に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングの経過から、サービス内容の変更などを定期的に行っている。担当者会議では身近な職員から意見などを聞き、現状に合ったケアプランを作成している。	介護計画の個別支援計画については、毎月話し合っているユニット会議での資料を基に、介護支援専門員が、家族と面会時や電話等で、細かく丁寧に話し合い、一人ひとりに沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の行動や言動、いつもと変わったこと等あった場合、記録を残すと共に伝達等で職員間の情報共有を行っている。職員間でも支援方法の意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診時等に職員が付き添いを行うなどの支援を行っている。家族が受診に付き添える場合は家族に行っていただくこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に散髪や口腔ケアなど来ていただいている。散髪はご家族希望でご家族がかかりつけの美容院へ連れて行ってくださる方もおり、安全で楽しく過ごせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医による往診と歯科衛生士による口腔ケアを定期的に行っている。その他にご本人からの訴えや異常・変化が見られた場合など、看護師に相談し、ご本人ご家族に了承を得て職員同行で病院受診を行っている。	利用者全員が、主治医は月1回、訪問看護師は週1回、歯科医は週1回か、2週に1回の訪問診療を受けている。歯科医の嚥下機能の相談も好評である。他科受診は主治医の紹介もあり、心強い安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の変化を見逃さず、訪問看護師が週1度来てくださり利用者の状態の把握や相談を行い、異常が見られた際には、随時連絡・相談できる環境を整え支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、安心して治療を行えるよう症状など情報交換を行い、連携を取り早期退院に努め、退院後も安心して生活できるよう連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向は伺い、ご家族には入居時に説明・同意書をいただいている。その時になれば改めて、事業所内で何ができるのかを職員・訪問看護師・主治医と連携し、ご家族に看取りの説明・同意書をいただいている。	主治医と看護師の協力体制は整っており、褥瘡については、毎日看護師の処置があり、主治医と共に24時間対応にも、気楽に話せ協力的である。今年度、1人の看取りがあったが、殆どの利用者や家族は、事業所での看取り希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備えて緊急連絡先を掲示している。入社時の研修や社内研修、資格研修などを通し急変時や事故発生時の際の初期対応の訓練などを身に付け、実践力をみにつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のこともあり、事業所内での防災訓練を行い、消火器の使用法や設置場所などの確認を行っている。救命救急の訓練や垂直避難などの訓練も行っている。	消防署との協力の元、年2回の訓練は出来ている。職員研修は、一つひとつの動きを丁寧に話し合ってから、訓練に臨み、振り返りも直ぐに行っている。今後は夏時や冬時の停電時の訓練も実践する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に寄り添いながらも個々のプライバシーは保てるよう配慮を行っている。また、何か訴えがあった時にはその方の気持ちを尊重し声掛けに気を付けながら対応している。	対応時は、丁寧な言葉使いと、優しい態度に注意を払っている。「トイレ」と言う言葉は使わず誘導し、汚染時は周りに気付かれない様に、連携を取りながら支援している。一人ひとりの人格に添った対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で衣類や飲み物など、本人に選んでいただけるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながらその日の過ごし方を希望に沿って支援している。全職員で訴えやすい環境づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回訪問美容師に来館していただき、希望の髪形にカットしてもらっている。爪切りや男性利用者の髭剃りにも気を配り施行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく味わっていただくために、食事前には口腔体操を行っている。できる利用者には食器拭きなどの手伝いもお願いし一緒に行っている。	ご飯と汁物は職員が作り主菜や副菜は業者である。食事介助の利用者へは、楽しい雰囲気を作り、他の利用者の動作にも気を付け、安心して食事が出来る様に見守っている。箸、コップ、茶碗は馴染みの物を使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めに体重測定を行っている。食事・水分量もその都度記録に残している。水分は1日1ℓ以上を目指し定期的に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケア（歯磨き等）を行っている。週1回歯科衛生士による定期口腔ケア・3か月に一度は医師による検診を実施している。義歯は入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間・量を記録に残しパターンを把握するとともに、排泄物の確認を行っている。個人個人の対応でトイレ誘導を行ったり、トイレでの排泄を促している。	自立支援を基本としており、殆どが一部介助であり、トイレでの排泄である。おむつ使用は2名である。一人ひとりに合ったおむつや紙パンツを使用し、当て方やタイミングを考慮し、漏れが少なくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状態を確認し、便秘薬ばかりに頼らず、運動（歩く）などしていただけるよう促している。また、訪問看護師や主治医にも報告・連絡・相談し助言等いただいている。		
45	-17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日を決めさせて頂き、週2回入っていただけるよう声掛け等行っている。一人ひとりのタイミングや状態を見て、できる限り希望に沿った支援を心掛けている。	重度の利用者は二人介助で支援している。入浴は、全身観察やお喋りによる思いや要望の把握など、貴重な時間と認識し、情報も共有している。入浴拒否の支援方法も工夫しながら取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室で短時間休んでいただいたり、昼夜逆転にならないよう配慮を行っている。その方の体調・気分に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日・毎食の服薬管理と服薬実施後記録に残している。内服薬は確実に服用しているか等口腔内の確認も行っている。症状や状態に変化があれば記録に残し薬の変更や中止等は主治医等と連携のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の残存能力を活かし洗濯畳などができることを見出して活力ある生活が送れるよう支援している。手作りの囲碁やかるたなどを用いたり、歌を唄ったりして趣味を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えていたが、春の季節は花見等を行った。病院受診など家族が対応していただけたときは対応していただけている。他に、庭へ出て花植えや日光浴等し外に出られない分、ベランダ等でできること等を支援している。	外出はまだ出来ていないが、家族や隣接の法人の保育園、グループホームとの協力で、外泊や外出、ドライブや日光浴などは楽しめ笑顔もみえた。家族と法事(3回忌)へ出掛けられた利用者の笑顔もあった。	隣接の保育園がこの3月で閉園され、可愛い声や姿が見えず寂しさを実感している。だが広いベランダと人工芝で覆った庭を利用出来るとの楽しみは残っている。そこをスタートとして笑顔あふれる外出の企画に期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、管理が困難なため、家族の了承の元施設管理を行っている。ご本人がほしいもの等あれば家族へ連絡し購入させていただいている。また、家族様には半年毎に金銭出納表をお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会を再開し、面会時に直接話をされている。要望があれば、職員を通して電話をしたり、手紙のやり取りをされている方もいる。日頃の様子等を写真にいて家族様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション等を通し、季節にあった壁飾りを作り季節感を出している。入居者同士の交流を持ち、日頃から共有スペースで過ごされていることが多い。	一番の自慢は、利用者・職員で作る季節ごとの壁面だと話される。毎年、実習生として介護を学びに来る、高校生の手作りカレンダーも大事にしている。リビングダイニングは、南に広く明るい大きな窓、北側には居室が並び、ドアを開けると全員の姿が見え、大家族の雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は入居者の関係や性格などを配慮し席を決めている。また、その時の気分によって座る場所が違う方もいらっしゃる。常に入居者同士の関係に気を配り落ち着ける環境づくりをしている。居室内で過ごされているときは職員が訪室し話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのある家具や日用品などを持ってきていただき、入居前に環境との違和感等がないよう工夫している。	自分で、テレビが見えるところへは椅子を、仏壇へは参りが座って出来る様に座布団を置いている。ほぼ寝たきりの利用者のベッドは、ドアを開けると皆の顔が見える所にと、一人ひとりの想いに添った居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室等場所がわかりやすいよう入居者の目線に合わせた位置に明記している。また、入居前に家族様が持ってきてくれた造花などを目印にしている利用者もいる。		